

厚生労働科学研究費（地域医療基盤開発推進研究事業）  
（総括）研究報告書

法医学領域における多職種連携とキャリアパス推進に関する研究  
～人材リクルート、継続的キャリアパス、他施設視察の取り組み～

課題番号：24IA1014

研究代表者：井濱容子 横浜市立大学 大学院医学研究科 法医学 教授

研究要旨

死因究明等推進基本法（令和元年6月制定、令和2年4月施行）が法制化され、「死因究明」は国策としても推進すべき重要課題である。「死因究明」には医師以外の多職種専門家の協力が不可欠であり、円滑な法医実務の遂行と正確な死因判断のために多職種連携は重要である。本研究では、法医学領域で多職種連携を推進するために、現状調査のためのアンケートを実施し、人材確保のためのセミナーを開催した。さらに、さらなるスキルアップと人材交流を目的として、各法医学講座の視察を実施した。アンケート結果については集計途中であるが、増大する法医実務で教職員の負担が増大していることが明らかになった。一方で、法医学にやりがいを感じるという教職員が想像以上に多く、将来に期待を持てる結果であった。学部学生と大学院生を対象として実施した人材育成のためのセミナーには多くの参加者があり、法医学を啓発する機会として有効であった。大学講座への視察は、有意義な取り組みや体制を知るだけでなく、人材交流の機会となった。今後、アンケート結果を詳細に分析するとともに、セミナーを継続するなど人材育成、リクルートなどに積極的に取り組んでいく。

研究分担者（所属研究機関・職名）

美作宗太郎（東北大学・医学系研究科・教授）  
山本琢磨  
（兵庫医科大学・医学部・准教授）  
小川匡之  
（愛知医科大学・医学部・准教授）  
梅原敬弘  
（産業医科大学・医学部・准教授）  
松末綾（福岡大学・医学部・講師）  
笹尾亜子（熊本大学・大学院生命科学研究部・講師）  
前田一輔  
（横浜市立大学・医学部・助教）

A. 研究目的

死因究明等推進基本法（令和元年6月制定、令和2年4月施行）が法制化され、「死因究明」は国策としても推進すべき重要課題となっている。

「死因究明」は法医学の責務であるが、解剖実務は医師だけで行うものではなく、臨床検査技師や薬剤師など他領域の専門家の協力が不可欠である。円滑な法医実務の遂行と正確な死因判断には、多職種連携は必須の課題である。

本研究の目的は、医師以外の職員を法医実務において活躍させることである。法医実務の効率化によって解剖率が上昇し、社会ニーズである正確な「死因究明」に寄与することが可能となる。そのためには医師以外の職員の現状や課題を把握し、課題解決のための施策が必要である。また、人材確保のための取り組みについても検討する。

## B. 研究方法

### ①人材確保のためのセミナー開催

学部学生・大学院生を対象として法医学をアピールするため、令和6年8月24-25日に横浜市立大学にてセミナーを開催した。開催のためのポスターならびにプログラムを添付する。

アンケートについては分担者の研究報告書（「学生のための法医学セミナー アンケートに関する研究」前田）を参照のこと。

### ②法医学領域教職員の実態調査

全国80大学医学部法医学講座に対してアンケート調査を実施した。

アンケート結果については分担者研究報告（「法医学領域における多職種連携とキャリアパス推進に関する研究」笹尾）を参照のこと。

### ③先進的な取り組みの視察

研究領域、法医実務領域、人材確保領域に分かれて、効率的な業務運用や先進的な取り組みをしている講座を視察した。

（分担者研究報告参照）

## C. 研究結果

### ①人材確保のためのセミナー開催

（分担者研究報告参照）

### ②法医学領域教職員の実態調査

（分担者研究報告参照）

### ③先進的な取り組みの視察

（分担者研究報告参照）

## D. 考察

### ①人材確保のためのセミナー開催

「学生のための法医学セミナー」には約70名の学部学生や大学院生の参加があった。過去に、医学部生を対象とした法医学の啓発セミナーは開催されたことがあるが、医学部以外の学生を対象としたセミナーは初めての開催であった。

医学部以外の学生が、どのくらい法医学に興味を持っているのかについては予想できず、正直、何名くらいの参加があるかも見当がつかなかったが、実際には多くの学生の参加があり、関心の高さが示された結果となった。

セミナーの講師は全国の有志の法医学者らであり、手弁当でセミナーに参加し、盛り上げていただいたことに感謝している。一方、後進育成や若手リクルートは法医学の現場にとっては喫緊の課題であり、現役法医学者の関心の高さを反映していると考えている。

セミナーの具体的な成果については、参加者に実施したアンケートを解析した分担者の研究報告書（「学生のための法医学セミナーアンケートに関する研究」前田）で検討されているが、大変好評であったと自負している。

また、本セミナーは時事通信社の記事にもなり、社会の関心の高さを示している [https://medical.jiji.com/column4/215]。

「医」の最前線 行動する法医学者の記録簿

### 法医学会が初の学生向けセミナー開催 ～社会的ニーズ紹介、将来の人材確保へ～ 【第8回（上）】

日本法医学会（神田芳郎理事長）は8月に横浜市立大学医学部で「学生のための法医学セミナー」を初めて開催した。法医学の社会的な役割やキャリアパスなどについて学生に理解を深めてもらい、将来の人材確保につなげていくのが狙いだ。



横浜市立大学医学部で開催された日本法医学会の「学生のための法医学セミナー」。冒頭、世話人の井濱容子・同大教授が「法医学のことを知ってほしいというのが一番の目的。もう一つは、法医学に興味を持っている学生がこんなに集まる機会はないので、お互い何を考えているか、交流してもらえたらうれしい」と述べた。

セミナーは2日間開催され、医学科学生のほか、臨床検査科や歯学系、薬学系の学生ら約70人が参加した。冒頭、世話人の井濱容子・同大教授は「法医学のことを知ってほしいというのが一番の目的。もう一つは、法医学に興味を持っている学生がこんなに集まる機会はないので、お互い何を考えているか、交流してもらえたらうれしい」と述べた。

司会は法医学会の庶務委員長を務める池松和哉・長崎大学医学部長が担当した。初日の模様を2回にわたり紹介する。

#### ◇公衆衛生の向上と市民生活の安全

最初のセッションは「法医学の社会ニーズについて」をテーマに4人の教授が登壇した。

### ②法医学領域教職員の実態調査

アンケートによる実態調査では、漠然と感じていた課題や問題が明確化した。働き方の現状については、教授を筆頭にかんがりの業務負担があることが浮き彫りになった。一方で、激務にもかかわらず「法医学にやりがいを感じる」と回答した人が全体の75%以上を占め、案外と法医学の未来は明るいのではないかと期待を持った。さらに、多くの大学院生が「将来、法医学の常勤を希望する」と回答していることも嬉しい結果であった。

今回のアンケート結果については、分担者の研究報告書（「法医学領域における多職種連携とキャリアパス推進に関する研究」笹尾）で検討されているが、大変興味深い結果であった。

### ③先進的な取り組みの視察

研究、法医実務ならびに人材確保に対して先進的な取り組みをしている施設への視察を実施した。各大学講座では効率的な業務のために、様々な工夫をしていることを認知した。各法医学講座によって状況は異なるものの、参考にすることができる取り組みや体制もあり、我々の得たものを何らかの形で周知することを検討している。

また、今回の視察をした分担者は、人材交流が

進んだことを成果として報告した。個別に話をすることによって相互理解が進みやすく、研究協力のハードルが下がるだけでなく、職務上の悩みを分け合うなどのメリットもあると感じた。特に若い法医学者、コメディカルにこのような機会を作ることも大事な任務と感じている。

各視察については分担者の研究報告書（「他施設視察に関する報告」（研究部門）山本・梅原（法医学実務部門）松末（人材確保部門）笹尾）に詳細を記載する。

#### E. 結論

アンケートやセミナー開催、他施設への視察によって、法医学領域における多職種連携の課題が明らかになった。今後、アンケートや視察の結果についてより詳細に分析して、今後の法医学が目指すべき方向や施策についての提言ができるよう積極的に取り組んでいく。

#### F. 健康危険情報

該当なし。

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

該当なし。

##### 2. 学会発表

日本法医学会全国学術集会 シンポジウム  
2025. 6. 12（久留米）

##### 3. 関連した実務活動

該当なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

該当なし

# 第1回 学生のための法医学セミナー

法医学ってなんだろう？法医学者に聞いてみよう！

医学科生以外の  
参加も大歓迎！

令和6年8月24日（土）、25日（日）

於 横浜市立大学 医学部 看護棟 205号室  
横浜シーサイドライン「市大医学部」下車3分

横浜市立大学医学部  
キャンパスマップ



参加登録はこちらから

- ・定員あり（先着順）
- ・参加費無料（旅費支給なし）
- ・登録〆切：7/31（水）

主催：日本法医学会

8月24日（土）13:30～17:00

第1部：法医学の社会的ニーズ

第2部：法医学におけるキャリアパス

A-Room（医学科生向け）

B-Room（その他学生向け）

第3部：グループワーク

A-team（医学科生）

B-team（その他学生）

☆18:00～ 懇親会@新杉田周辺（予定）

協賛：横浜市立大学 医学部

令和6年度厚生労働科研究費補助事業

「法医学領域における多職種連携とキャリアパスの推進について」

Illustration by M.S.

8月25日（日）9:00～12:00

第4部：「法医学者に聞いてみよう」

第5部：法医学領域における研究

問い合わせ：横浜市立大学 医学部 法医学

Tel：045-787-2618

Mail：forensic@yokohama-cu.ac.jp

（担当）加藤、那須





## 第1回 学生のための法医学セミナー プログラム

8/24 (土) 13:30~17:00

13:30~14:30 法医学の社会ニーズについて【大講義室 205】座長：池松 和哉（長崎大学）

社会医学としての法医学 神田 芳郎（久留米大学）

「死因究明」ってなぜ大切？ 佐藤 貴子（大阪医科薬科大学）

小児虐待への対応 -法医学の役割- 榛葉 頼子（長崎大学）

令和6年能登半島地震における死体検案 -大規模災害と法医学-

水上 創（金沢医科大学）

Room 1（医学科学生対象）【講義室 201】

14:45~16:15 法医学におけるキャリアパス 座長：池松 和哉（長崎大学）

地域による法医実務の違い 白元 洋介（九州大学）

法医学者 & 画像診断医への誘い 槇野 陽介（東京大学）

病理学と法医学の違いについて -私個人の体験- 佐藤 文子（北里大学）

科学警察研究所・科学捜査研究所の仕事 木下 博之（科学警察研究所）

法医学で社長になりました！ 永井 智紀（神奈川県監察医事務所）

16:20~17:00 グループ・ワーク 【講義室 201、202】

Room 2（臨床検査科・薬学系・歯学系学生対象）【大講義室 205】

14:45~16:15 法医学におけるキャリアパス 座長：梅原 敬弘（産業医科大学）

前田 一輔（横浜市立大学）

本当は怖い薬の話 笹尾 亜子（熊本大学）

法医学で働く臨床検査技師 坂本 圭菜（東京慈恵会医科大学）

科学捜査研究所の業務紹介 和田 文太（埼玉県警科学捜査研究所）

From outside To outside 井上 日菜子（株式会社ロッテ中央研究所）

流浪の研究者の終着地 小川 匡之（愛知医科大学）

16:20~17:00 質疑応答

18:00~ 意見交換会 「千年の宴」@新杉田

[<https://tabelog.com/kanagawa/A1401/A140308/14037020/dtmap/>]

8/25 (日) 9:00~12:00 【大講義室 205】

9:00~9:30 グループ・ワーク 発表会

座長：池松 和哉 (長崎大学)

9:40~12:00 法医学領域における研究

座長：池松 和哉 (長崎大学)

法医学領域における研究について

近藤 稔和 (和歌山医大)

「先生、死因が分かっててもこの子は生き返りませんか？」

山本 琢磨 (兵庫医科大学)

法医学だから！心臓突然死の研究

垣本 由布 (東海大学)

法医学と北欧：留学で得た貴重な経験

早川 輝 (秋田大学)

南の島の法医学

二宮 賢司 (琉球大学)

※講師、参加者ともに普段着でお越しください。構内ではマスク着用が推奨されています。

＜セミナー会場＞ 横浜市立大学 医学部 看護教育研究棟 2階 大講義室



※シーサイドライン 市大医学部駅改札を右に出て、外階段を下りる、正門から入って右奥

＜意見交換会 会場＞ 「千年の宴 新杉田駅前店」



※JR 新杉田駅から西口に出て右手に 50m → ドトールコーヒーの 2 階

横浜市磯子区新杉田町 3-6 コンパイン新杉田 2 F